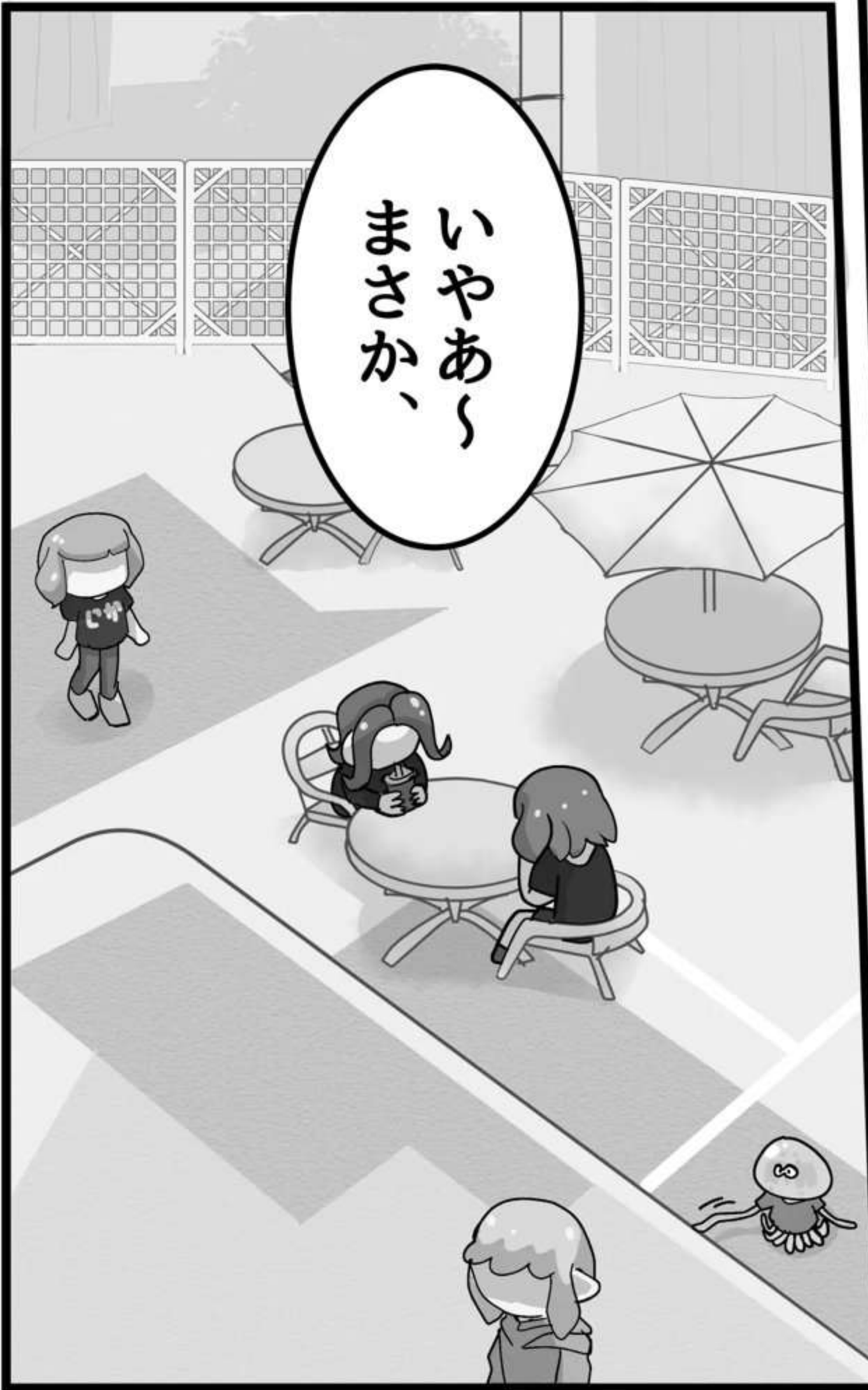




⚠️ 注意 ⚠️

この話にはイカの要素が含まれます。

- ・バッドエンド
- ・モブによるレイプ
- ・スプラトゥーンの世界観や
設定のねつ造解釈





全然稼げなかったけど
しようがない……

ウー……
チャントワタシモ
しふとヲ確認シテ
オクベキダツタ

いやいや……
それはボクも
だよ



あとちょっと
なんだけどなあ

ボクが
言っているのは、

ハチがバンカラ街へ
引越すための資金の
ことだ



バンカラ街への交通の
便がよくなった、という
ニュースを見てからと
いうものの

ハチはだれの目に見ても
明らかにバンカラ街への
憧れを抱くようになっていた

ボクたちの
生活はただで
さえカツカツ
だったから

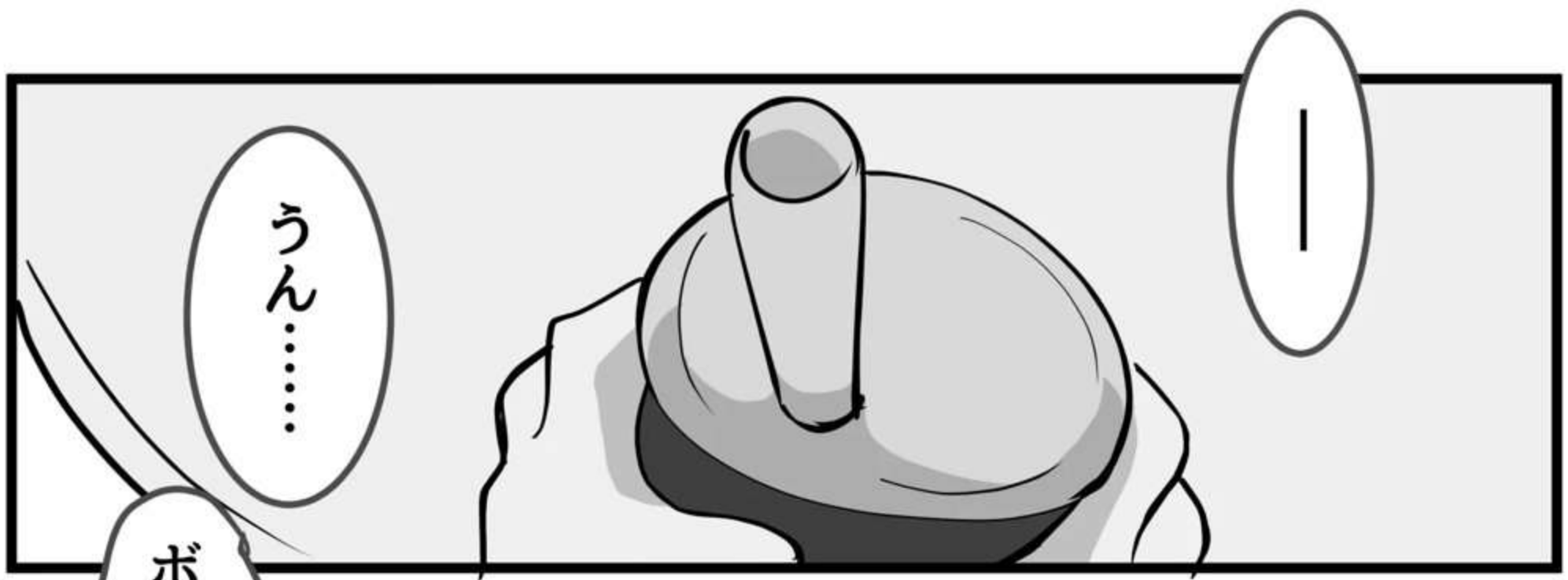
最近になって
鬼のように
バイトに打ち込んだ

それまではんにんまえ
だったハチも、今じゃ
立派なカンストたつじん
になった

ネエ……

よんハ
ヤツパ
リ

一緒ニ
来テクレナイノ？



ボクは……

ハイカラスクエア
ここを、
守らなきゃだから



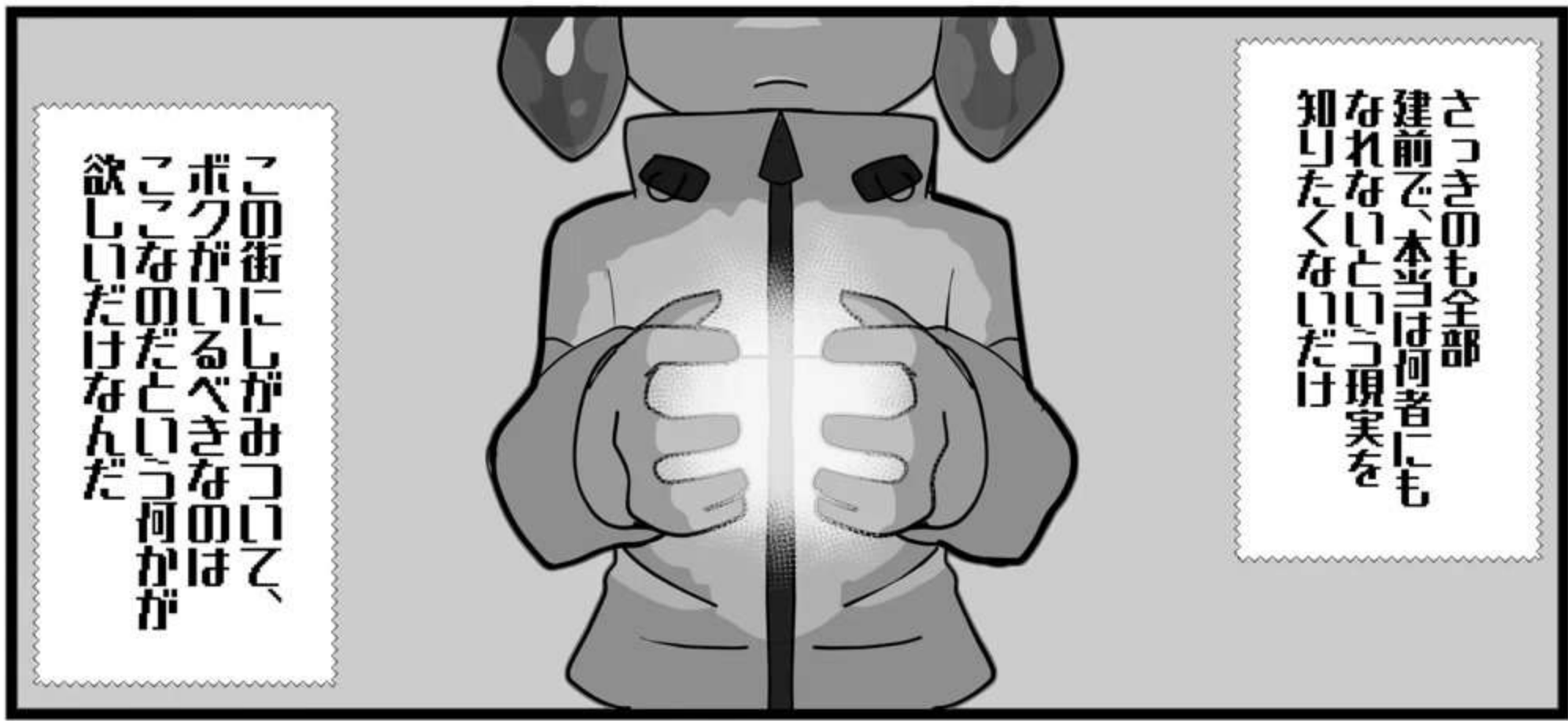
センパイたちの
気配が完全に
消えてからというもの

不穏な空気が
街のあちこちに
漂ってきていた

ヒーローとしては
見過ごしてられない——

でも、ボク⁴めたいな
無名が抑止力に
なるわけもない





さっきのも全部
建前で、本当は何者にも
なれないという現実を
知りたくないだけ

この街にしがみついて、
ボクがいるべきなのは
ここなのだという何が
欲しいだけなんだ



バニカラ街で
活躍しているらしい
新3号ほどの
熱量もないから――



ボクはセニパイほどの
偉業を成し遂げていないし、



よんツ!

ん、



バンカラニ行ツタラ
シタイ100ノコト、
発表シマス！

日が暮れちやうよ〜

深夜二時

ハチは家で
寝ちやつたけど

引っ越し金まで
あと少しだから
つついっ一人
で
きちやつた

またチケットだ……

深夜だからあんまり
出たくなかったけど……

でもバイトをしてたら
なんだか頭が整理できた

ハチがここからいなくなっても
ボクは死ぬわけじゃない

じゃあどうとでも
なるんじゃないか？

じゃあせめてセンパイらしく
最後にかっこいいところを
見せたい——



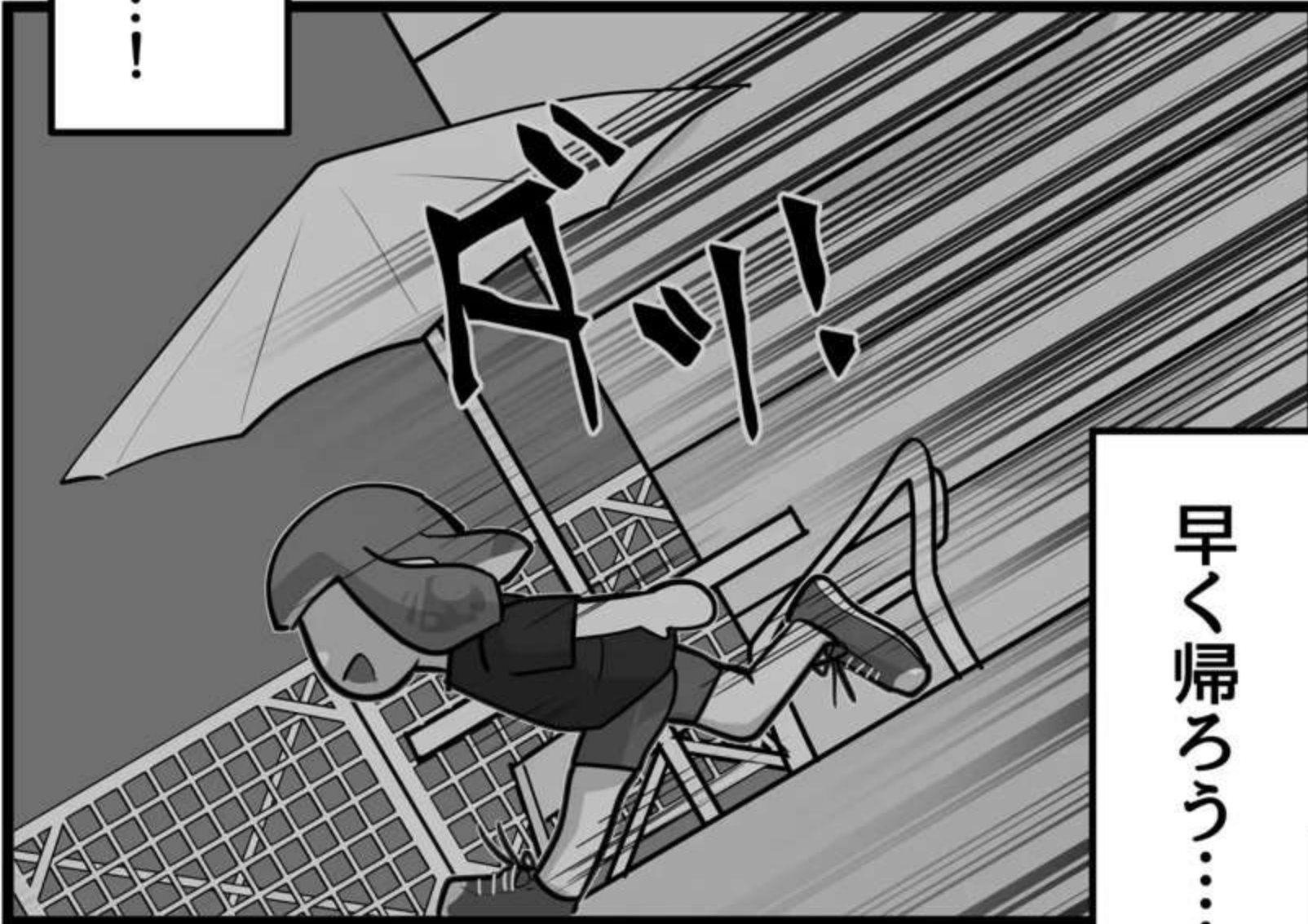
あ………！

達成した………！！
引越費用！

これでハチは
バンカラに行ける………！！

起き抜けのハチにこれを
伝えたらどんな反応するかな

早く帰ろう………！！





あ、
……?
?



いたっ!

よお、
おつかれさん



さつきバイトで
組んだイカたち……!?

なっ……!?

ポイズンミスト……ッ

息が……!

バトル以外で
ブキの使用は
固く禁じられている

罰せられる
ことだって

あれ、ボクは一体……
さつき頭を溶かされて
それから……

んん……っ

え……

やつ……
いやああっ!?

やっぱ女の子じゃん
アタリ引いたわ〜

おっ、目エ覚ますの
早かったな

アタリって何

何でボクは
脱がされているの

ボクは今から
何をされるの

はっ、はなして……
なんで……ッ

お前ら
なんなんだよっ！

あんまり騒ぐと
もう一発
かましちまうぞ〜

ズッ

ッ……！

さっきのバイトで
アンタの動きが
よかったからさあ

気になって
たんだよね〜

クハッ

カッ
カッ
カッ

オレたちと遊ばない？

どうせこんな時間まで
バイトしてんだから
暇でしょ？

ひ、ヒマじやな—

今からすぐに
気持ちよく
なるからさあ

ま、アンタ
次第だけどね

まさか—

や、あつ……！！

くちゅっ…

ビュッ

ぬいてっ、ぬいてっおお……っ

キゅっ

キゅっ

うおー、キツキツだぜこれ
ねえ、嬢ちゃんもしかして処女？

ここで処女なやつって
逆にいなくね？
超貴重じゃん

だあ……！

フルッ

初めてがオレたちでごめんね

やだ、やだ

いたいよ
気持ち悪いよ……！

あ……

おおう、ナカがいい感じに
なってきたぜ

イイ感度してんねえ

これも誘ってるっしょw

フクッ
フクッ
キゅッ
キゅッ





おーい、わかるかー?

どろっ

大丈夫じゃね?

……っ

あーもう我慢できねー
もういいよな?

はっろんっ



今からちんぽ
挿れちゃうん
ですけどー

ぶっ

!!

ほおら、オレたちに
インク色そろえろよ

でなきや痛い目見るの
嬢ちゃんだぜ

いや……
いやあつ……!!

ぬりゅっ

ぬりゅっ

それをしたら「合意」に
なつちやう……!!

そんなの認めるわけ
にはいかない……!!

だれ、がつ……!!

キッ

じゃあこのまま
挿れちまうからな

ああ、そお

そんなことをすると
痛みを感じるのは
相手も同じはずだ……!!

インク同士が
拒絶反応を起こしてー

ぞらっ

おゝこのピリピリする
感覚たまんねえゝ

ぎゃっ

ひっ……
ひっ……

なんで相手は
なんともないんだっ!?

っ!?
が、ああっ!

嬢ちゃんごめんなく
こいつだわ
イカれてんだワ

オレたちは痛いの
ごめんだから
インクそろったら
仲良くしようなく

しっ、しないっ
なんでボクが……

ぐんっ

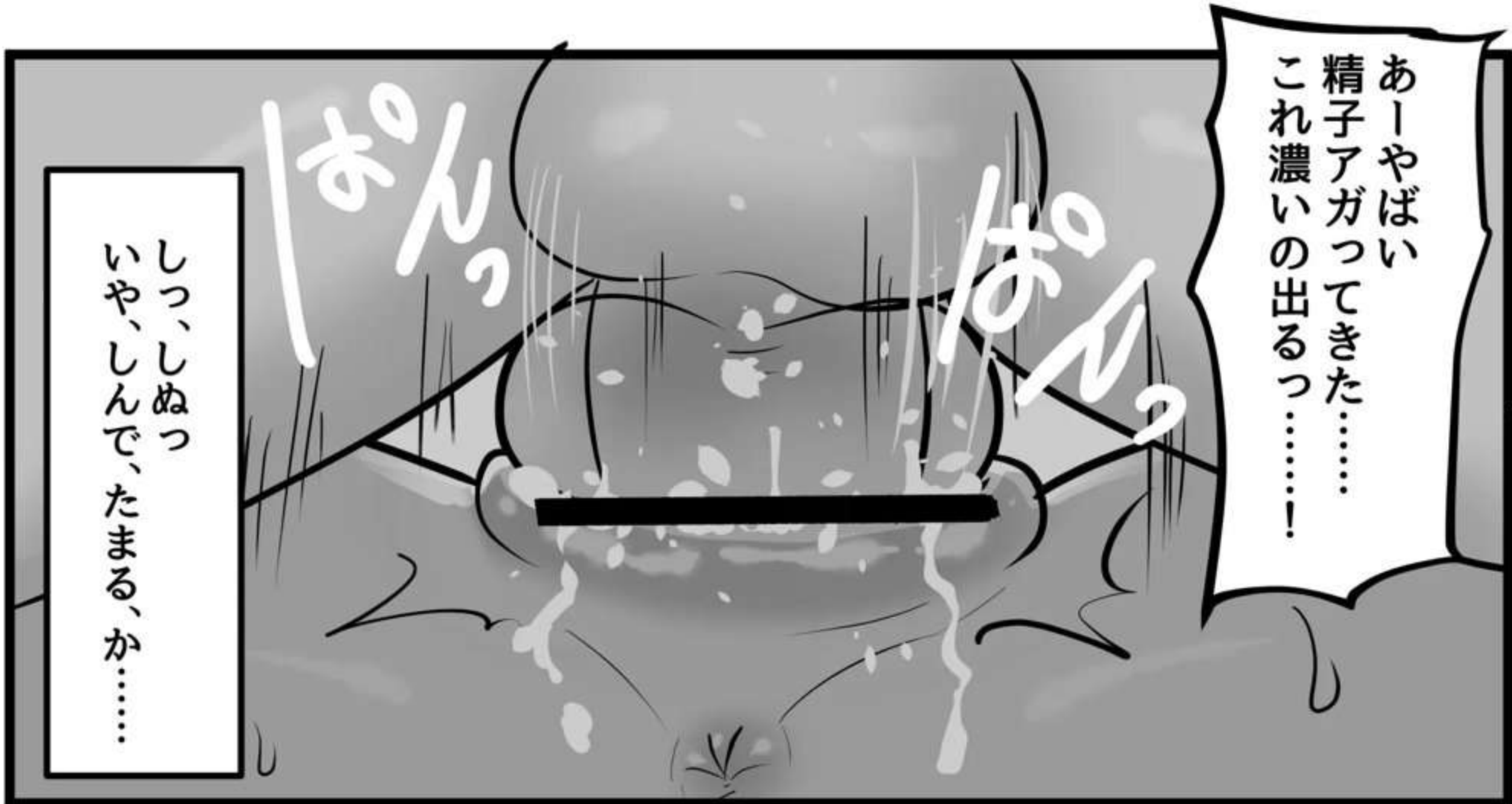
どちゃっ

どちゃっ

どちゃっ

おーおー
このままだと
死んじまうぞ

家にもどるんだ
ここでしぬ
わけには……



あーやばい
精子アガってきた……
これ濃いの出るっ……!!

しっ、しぬっ
いや、しんで、たまる、か……



ぐぐぐ、ぐぐぐ……!!



あたまが、のうが
とけてなくなる



あ、あ、ないぞうが
やかれる



めのまえが
まつくらになって
ぼくが
いなくなる……



かほっはっ



おっ、インクの色
赤に変わったぜ

やっぱ本能は
死にたくなかった
みてえだな



よっしやー
じゃあ次オレの番

ボク、の、体……
認めちやっただ……



いやだ

いやなの
に
いよなの
に
いよなの、
もう



こんな世界

なくなっちゃえば
いいのに……



体が、言うことを
きいてくれない……



こんな、



ボクはあんなに
頑張っていたの
だろうか




こんな
バカらしい世界を
守るために




もうこんな街を
守る必要は無い


……かといって、



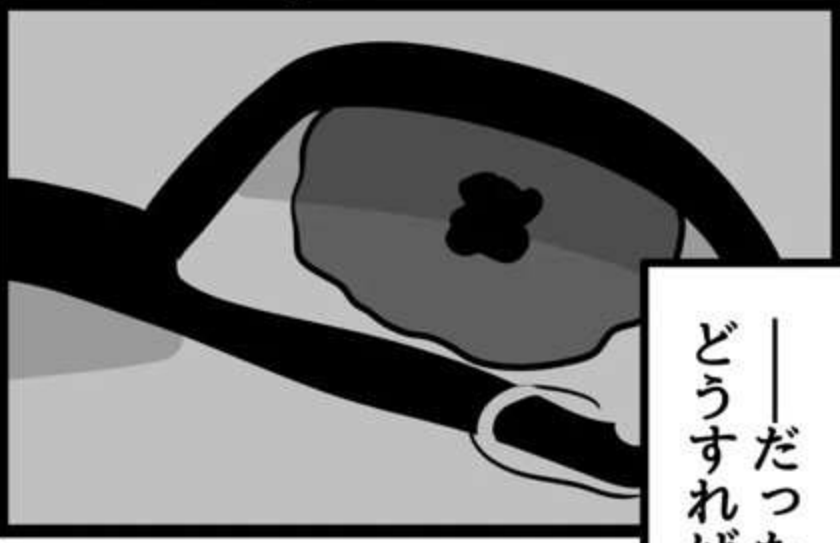
ボクはこんな体で
ハチに会っても
いいのだろうか



ハチと一緒に、
バンカラへ行ける
だろうか



いいや、そんな資格
ボクにはない



——だったら
どうすればいいんだろう



ボクにはもう、
何も無いのだ

生きる意味も、
なにもかも

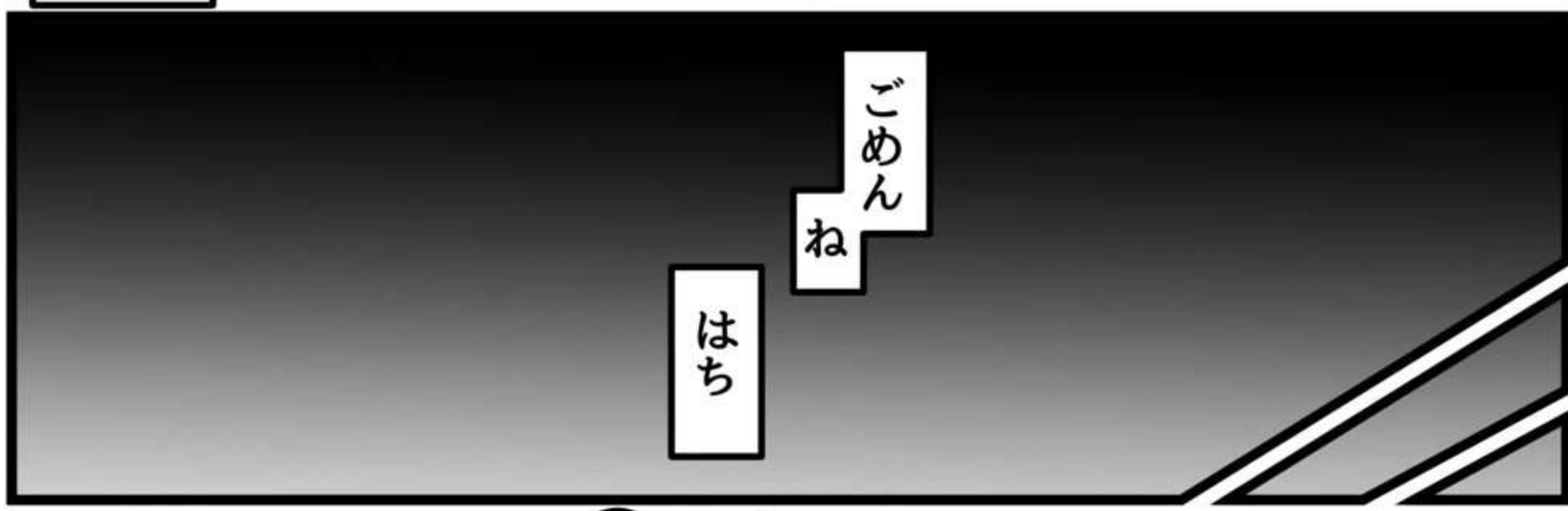
もう、全部、
どうでもいいや……



こんな、無駄なこと
終わりにしよう……

ごめん
ね

はち



よん……？

はち



——嫌な予感がした



そういえば最近の
ヨンはおかしかった

ワタシのせいだと思って
あまり話してこなかったけれど



急に元気がなくなった

でもワタシの話は
よく聞いてくれたし

笑っていてくれた

だから、ここにいても
いいんだって思えた

——本当にそうだったの？



ワタシはもっと
あなたの話も
聞きたかった

いつも話を聞いて
もらってばかり
だったけれど

優しいあなたの話を
聞きたかった……

